

復活節第三主日

ヨハネ 21・1-14

2013.3.13 18:30 ミサ

マルセリーノ・フォンツ

(クラレチアン宣教会司祭)

どうしてイエス様はペトロに「わたしを愛しているか」と聞かれたのでしょうか。イエス様はペトロの愛を確かめようとして聞かれたわけではありません。ペトロがイエス様を十分に愛していることを、イエス様は良く知っておられました。この場面を理解するために、別の場面を思い出す必要があります。それは言うまでもなく、ペトロが三度イエス様を拒んだ場面です。しかし、どうしてペトロはイエス様を三度も拒んでしまったかを考える必要があると思います。

言うまでもなく、ペトロはイエス様を愛していたから、イエス様に従っていました。イエス様のために何か出来るか、イエス様に何が起こるかを確かめるために従っていたのです。しかし、ペトロは自分が強い人間だと思って、自分の弱さをあまり考えていませんでした。ですから、イエス様のアドバイスも聞きませんでした。イエス様に「私のために何もできないよ。何かしようと思ったらかえって私を拒んでしまうことになるよ」とはつきり言われたのに、それを聞かないで、ただ何も考えないでイエス様に付いて行ったのです。イエス様に三回も同じ質問をかけられた理由が、そこにあるのではないかと思います。

まず、ペトロが三度もイエス様を拒んだことをやり直すために、イエス様はペトロに「愛している」と言う機会を、チャンスを与えてくださったに違いありません。今日の福音の箇所を読むと、いつもミサの中で唱えられる言葉が浮かんできました。今日も唱えた言葉です。「打ち砕かれた心を癒すために遣わされた主よ、あわれみたまえ」。イエス様は、まずペトロの心の傷を癒すために、その砕かれた心を新たにするために、ペトロに三回も同じ質問をかけられたのではないかと思います。ペトロにはそれが解りました。

しかし、もう一つの理由は、イエス様がペトロをご自分の後継者として弟子たちを指導するために選んだことにあります。そのためにイエス様は、ペトロに本当の愛を教えようとなさったのではないかと思います。ただイエス様に対しての愛ではなく、ペトロのイエス様に託される人々に対しての愛についての質問でもあります。そのためにペトロが学んだ大事なことは、謙遜な心です。ペトロは自分の弱さにやっと気付きました。イエス様を拒んだ時点で、ペトロが自分の弱さに気付いたら、たぶん三度も拒まないで済んだのではないかと思います。

います。すぐに外に出て、このように三度も拒んでしまうのを避けることができたのです。イエス様は、そのようなペトロを良く知っておられたので、三回も「わたしを愛しているか」と質問したのは、ペトロに自分の弱さに対して意識を持たせるためもあったのではないかと思います。謙遜な心、まず自分の弱さを知る心であると同時に、弱さを持っている人に対する理解のある心、本当に愛するために必要な心、ではないかと思います。

ペトロは、本当にイエス様を愛していると思っていましたけれども、自分の弱さに気付いていませんでした。だから、弱さを持った人々を本当に愛することは出来ませんでした。イエス様は、ペトロにこのように三回も考えさせて、愛はどういうものなのか、ペトロが託された人々を愛するためにはどのような心が必要なのかを悟らせてくださったのではないかと思います。

私たちはときどき、何か悪いことをした後で後悔して、できればこれを無かったことにしたい、ゼロからやり直したいという気持ちになります。でも、手遅れで、何もできない。過ぎたことを白紙にできない状態がよくあるのではないかと思います。しかし、今日の話を読んでもみると、神様は私たちにもそのようなチャンスを与えてくださいます。考えてみれば、私たちが何らかの形でイエス様を拒んでしまったとき、イエス様はいつも私たちにこの質問をかけてくださるのではないかと思います。「わたしを愛しているか」。この質問は、私たちの愛に気付かせるだけでなく、私たちの弱さにも気付かせて、もっと謙遜な心で愛することができる恵みでもあるのではないかと思います。考えてみれば、私たちもイエス様に「わたしを愛しているか」と何回も聞かれる必要があるのかもしれない。

イエス様はいつも私たちに、新たに、自分に対して、また人々に対して、愛を告白できるチャンスを与えてくださるのです。私たちに与えられたゆるしの恵み、癒しの恵みに感謝しながら、私たちもペトロと同じような心を学んで、愛することが出来るように願いながら、今日のミサを続けましょう。